



繪：「サンディモン社の女」(1670) 相模原美術館蔵

アジアの華Ⅱ — 美の環流

会期：2004年1月17日(土)～2月22日(日)

休館日：火曜日

開館時間：10時～17時(1月17日：11時開館)

入館料：300円／無料：65歳以上、学生、生徒、身体障害者手帳持参者

第一部 伝統のもとに

何 香凝

羅 蕙錫

陳 進

朴 峽賢

千 鏡子 他24名



第二部 現在そして未来へ

金 守子、尹 秀珍、姜 傑、ニッキー・リー、林 天苗、何 成瑤 他

主催：女子美術大学、女子美アートミュージアム

共催：女子美術大学同窓会

後援：相模原市、相模原市教育委員会、
読売新聞東京本社

協力：海外／韓国国立現代美術館、ソウル市立美術館、

金星出版文化財団、誠信女子大学校、

蕭成家氏(台北)ほか

国内／福岡アジア美術館、個人收藏者



◆シンポジウム

「戦前の女子美とアジアの学生たちの足跡」

2004年1月17日(土) 13:00～17:30

会場 女子美術大学相模原校舎10号館共用スタジオ

主催 女子美術大学研究所

発表者

金 詰孝(三星美術館資料室首席研究員 ソウル)

黄 光男(国立歴史博物館館長 台北)

小勝禮子(栃木県立美術館特別研究員)

司会 島村 輝(女子美術大学 教授)

◆ワークショップ

「孔雀石をくぐりて緑の絵具を作り、桐の小箱にぬろう！」

2004年2月22日(日) 13:00～15:00

講師 橋本 弘安(信)(女子美術大学 教授)

会場 女子美術大学相模原校舎

対象 小学生以上(小学生は保護者同伴)

定員 20名

材料費 1人300円

●詳細はお問合せ下さい

女子美アートミュージアム

神奈川県相模原市麻溝台1900 女子美術大学10号館

tel : 042-778-6801 fax : 042-778-6815

http://www.joshibi.ac.jp

小田急相模大野駅から神奈川中央交通バス(大60)女子美術大学行 終点下車(約20分)

第一部 伝統のもとに

1900年（明治33）美術による女性の自立と社会的地位の向上を目指して創立された女子美術学校には、1945年（昭和20）の太平洋戦争終結までの約半世紀の間、女性に開かれた唯一の美術教育機関として、東アジア諸国・諸地域より多くの若い女性たちが集い、勉学を重ねて巣立っていった。当時の卒業生名簿などからは、中国・台湾から150名、朝鮮半島からは104名ほどの留学生が確認できるが、その後の国交断絶や戦争の影響などで、残念ながら大半の人たちは卒業後の消息が不明となってしまった。知られる限りでは卒業後祖国に戻り、教師として後進の指導にあたった人たちが多かったようで、以後のアジア諸国における美術の啓蒙普及に少なからぬ影響力を発揮したであろう。

第一部の展示では、中国近代化運動に参画し、創作活動の傍ら政府の要職を歴任した何香凝（1911年卒）をはじめ、韓国初の女性洋画家で文筆による女性解放運動でも知られる羅蕙錫（1918年卒）、台湾美術の発展に大きな足跡を印した陳進（1929年卒）ら、20世紀の激動の時代に母国において女子美の掲げる「美術による女性の自立と社会的地位向上」に多大な貢献を果たした、中国・韓国・台湾出身の本学卒業生の作品を紹介します。なお本学収蔵品を含め今回の展示に刺繍作品が多いことは、当時の朝鮮や中国において刺繍の需要が高く、留学生の大半が刺繍科に学んでいたことを物語っています。

アジアの華Ⅱ－美の環流

第二部 現在そして未来へ

20世紀の政治的イデオロギー対立の時代を経て、21世紀、世界は経済上の問題にとどまらず、民族や宗教といった根本的対立をめぐる新たな紛争の時代を迎えようとしている。前世紀に不幸な戦争を経験した私たちは、二度と過ちを犯さぬよう、睿智を結集しなくてはならない。戦前の留学生たちはさまざまな困難を乗り越え、「美術」が国際言語であることを証明してみせると共に、多くの旧弊が残るアジア社会に女性が果たす役割の大きさを広く知らしめた。美術は、国家の枠を超えて人々に共感と多様な価値観を伝え合う、21世紀のあるべき国際人を育む上に有効なコミュニケーションツールであり、人類の半分を女性が占めるこの社会にあって、女性たちによる地球規模での表現活動や社会参画がますます期待されることだろう。

21世紀におけるアジア美術の発展と豊かな未来の構築に向け、第二部では、福岡アジア美術館はじめ関係各位の協力を得て、目下欧米はじめ世界のアート・シーンで活躍中の林天苗・姜傑・伊秀珍・何成瑤・杜捷（以上、中国）、金守子・ニッキー・リー（以上、韓国）ら、アジア出身の若手女性作家を取り上げ、「アジア・女性・美術」の今を紹介します。また同時に、ごく近年女子美に学んだ中国・韓国・台湾出身の留学生の作品も併せて紹介します。彼女たちの作品から21世紀の美術の未来が見えてくることを期待してやみません。



尹秀珍「毛糸」1997年

福岡アジア美術館



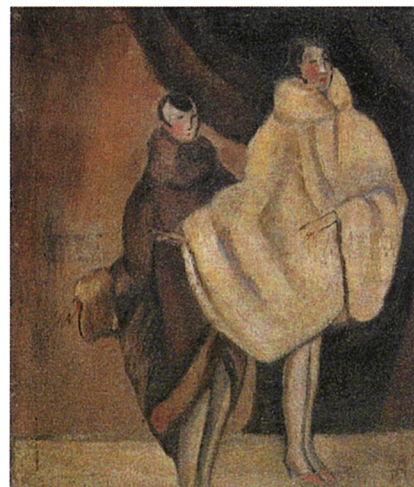
千鏡子「女人たち」1964年

ソウル市立美術館



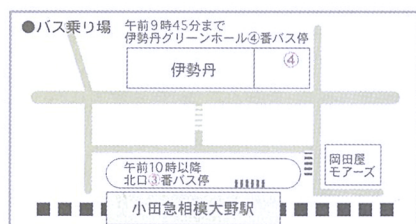
朴映賢「露店」1956年

韓国国立現代美術館



羅蕙錫「カンカン舞姫」1940年

韓国国立現代美術館



小田急相模大野駅から神奈川中央交通バス（大60）女子美術大学行 終点下車（約20分）